



# さくら花

笑顔満開さわやか角小

重点：4つのあ

- あいさつ ●あんぜん
- あい読書 ●あとしまつ

+ 「何かできらり」

正しいことば

令和元年9月6日(金)発行

## 安全で楽しいお祭りに



今年も、子供たちが楽しみにしている「角館のおまつり」が、明日7日(土)から3日間の日程で始まります。本日、9月6日(金)、各丁内曳山責任者や少年係の方においでいただき、曳山別丁内児童会を行いました。そして、丁内の子どもたちの顔合わせと、責任者や少年係から事前の指導をしていただきました。

学校としても、このお祭りは、子どもたちにふるさとへの愛着と誇りをもたせるための体験学習の絶好の機会ととらえています。責任者を先頭に、丁内の大人たち、若者たちの祭りにかける意気込みや取り組みの様子から、子どもたちは将来の祭りの担い手として大人たちをあこがれや手本として、心に刻む体験をすることと期待しています。

なお、お祭りには、様々な危険や誘惑も伴います。事故等にあうことなく、有意義な3日間にするために、角館小学校児童としてのルールやマナーをしっかり守ってほしいと思います。学校でも、9

月3日付けで配布しました「楽しく有意義なお祭りをするために」の内容について、事前に指導しています。ご家庭でも、その内容を今一度ご確認ください、お声がけいただきますようお願いいたします。お祭り期間中は、本校職員も巡回指導いたします。

また、お祭りに参加しないお子さんにつきましても、祭り期間の過ごし方について、ご家庭でのお声がけをお願いいたします。

なお、子どもたちは10日(火)も「開校記念日」でお休みとなります。疲れを残さないようしっかり休養して、11日(水)からの登校に備えるようお願いいたします。

### お祭りの約束（抜粋）

- ・ 丁内の責任者、少年係やタスキをかけた大人のことをよく聞く。
- ・ 上級生は下級生の面倒をみる。
- ・ 曳山ではロープの先の方につく。横や後ろには絶対につかない。激突には絶対参加しない。
- ・ 曳山についているときは、半纏をぬがない。(半纏が丁内の目印です)
- ・ 他の丁内の曳山にはつかない。曳山から離れて一人で行動しない。
- ・ 夜は、低学年は10時をめぐり、高学年は11時をめぐりとし(保護者の方に迎えに来てもらう)、それ以降は保護者同伴とする。
- ・ ゴミの投げ捨てはしない。無駄遣いはしない。
- ・ 何かあったら、一番近くの大人に伝える。 など

# 音楽の授業研究会がありました

9月3日(火)に、1年梅組と2年松組で、音楽の校内授業研究会を行いました。

1年梅組は、「どれみで うたったり ふいたり しょう」という題材で、鍵盤ハーモニカのドとソの位置を覚え、音色に気をつけて演奏しようという学習でした。「どんぐりさんのおうち」の歌詞や鍵盤ハーモニカの図などから、ドングリさんのおうち(ドの位置)は、2つのお山(黒い鍵盤)の左側、ソラマメさんのおうち(ソの位置)は、3つのお山の1つ目と2つ目の間にあることを知りました。そして、ペアになって、歌と鍵盤ハーモニカを分担して、お互いの音色を聴き合いながら、楽しく演奏しました。

2年松組は、「ドレミであそぼう～音のたかさのちがいをかんじとろう～」という題材で、音の高さを感じ取り、旋律につなぐ音を試しながら短い旋律をつくる学習でした。子どもたちは、「ドレミであそぼ」を、音の高低を体で表現しながら、息の合ったきれいな歌声で歌いました。次に、ペアに分かれて、いろいろな音を試してみたり、話し合ったりしながら工夫して短い旋律をつくりました。最後に、つくった旋律を発表し、みんなで聴き合いながら、いろいろな旋律の楽しさを味わいました。

1  
年  
梅  
組



2  
年  
松  
組



参 考

## 角館祭りやま行事 (ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形民族文化財) について

角館の祭りやま行事は、平成3年に国指定重要無形民俗文化財に、平成28年にはユネスコ文化遺産に指定されました。祭りの歴史や「神明社」「薬師堂」「踊り」「人形」「張り番」「交渉」などについて、右の資料を使用して、学校でも学年に応じて学習をしています。

この資料から今回は「ヤマを飾る人形」について紹介します。

【ヤマを飾る人形】

ヤマの上には踊りのための前舞台があり、その後ろには松をあしらった黒木綿で作った巨大な山(もっこ)と武者人形や歌舞伎人形が飾られます。またヤマの後部には「送りっこ」という人形が乗せられます。

角館の祭りの飾り人形は元禄時代の角館の祭り(鹿島祭り)に遡る歴史あるものです。しかし当時の人形がどのようなものであったか、今となっては定かではありません。記録としては、文政年間(1818～1830年)に角館の四条円山派の絵師、武村文海が秋田市の山王祭に飾る人形を制作したとあり、当然角館でも人形を制作したと考えられます。

文海の弟子の角館の画家平福穂庵も、明治13年頃から人形作りに携わり、人気を博しました。今も当時の流れをくむ人形師によりヤマの人形は角館で作られ続けています。

